玉梯小摘

六

源氏物語の小櫛六の巻

帚木巻下

のたまはしはて十七のくだり　さぶらひなどはれんるといふまでハ地の位ちうをいふ

と詞ふるゐが何ときこゆハえがてくし。

まれ　同　しもと詞ふ。ことば葉を異きこゆるといふ。ゑだてくし。

なきてぞいづる　同　あのがえせぬあづまぬすまでをさハ思ふとどこちひて

こゝるをかり。

こゝをかく　同　深いてなまめびのうゝふてきこゆ。きこゆるとの

詞ハ得し。こゝをこゝるとこゝろ。

なまめびゆき　同　もてきこゆ。なまめびゆきとゞこゝて行ふ者ゝても。

ゆうしゐがごとゝおもふまゝふやう〳〵常ふこゝゆゑし。
みさをふもてつゝて　十八の段〳〵　伝ふ。ゆゑ物ゝいつゝまて。家貧乃
こゝし。伝ふ。その母まひをといつゝ。さがり。
けうさとゝゝ〳〵　日　けうさハ嬢妃のゆし。よろ〳〵物ハうもく〳〵なの
色ふ物ゝし。そ物りめ下へ。でもゆ加へ〳〵んなだし。
さが物さとゝ〳〵　日　ゆゝ何の流物伝ふハうゆをだ。物伝ふそハ〳〵。ゆさ
が物きゆて。伝ふ。ゆやうゆしき〳〵ゆて〳〵し。さて けうさゆ。さが物さゆ
〳〵いつゝハ二つのめ〳〵ゆゆ色ゆ。ゆ〳〵だ。さが物きハ。嬢妃〳〵てさが物きゆ
ゆだ。一つゆし。嬢妃ゆ物のゆふ。ちりて。さが物さゆやゆ。さてやゆ
〳〵ゆひて。ハやゆべ〳〵せん〳〵ゆひて〳〵し。

ゆきてふうし物ゆゆ。ゆひて　日　女をう〳〵さゆ〳〵ゆふ。ゆうりてゆる。
物ゆ。家ふうし〳〵ゆふ。ゆ〳〵ゆ。ゆ。ゆ。ゆの流ハいみ〳〵
きゆが〳〵なり。
ゆゑえゆべき家〳〵きゆ〳〵ハ　日　こゆ〳〵ゆ。ゆふ。ゆをゆ〳〵ゆ。
ちぎりゆ〳〵ゆ〳〵ゆ　日　ゆゝ何ふいゆ。ゆ家ゆ物。ゆ〳〵ゆといつゝ。
ゆ〳〵ゆ人ゆ〳〵ゆべき　日　ゆ〳〵ゆ物ハふ。ゆんといふ辞の。ゆ〳〵物べ〳〵。この辞
ゆ〳〵てハべきのてふ。ハ〳〵のゆ。一ゆ。ゆハ。ゆべきやう物〳〵ゆ。ゆ。それ
も伝ゆ〳〵のゆ。
いひゆ〳〵　日　家ふ。ゆ。ゆ。ゆ

のぞうふうひきさまて　十九のひ　さるはつかのそひ　廿日　ふいまざるよし。
ひいるぐものこと　曰　さべて世間さいふわんもまりがさひまはちる
をそのうれはしく　杉こふはふこと　しゆ間の花いうきこがて
かり。又春花細流ふひあき杉をとうるもこがて。
さうぐ志ぐかりて　曰　ちうとうんとうて思ひふこがて有し。
および　曰　孫きふいつるぞういうこで指し一つといつるあてもおべ小指あぞ。
そづうを先ふそつうさ伝　曰　上ふえぞそ杉ゆまぎ杉きわぞとうこ。
女のいつるふあうていあし。
あるあ成をりてうこ　曰　やうこでやのさし。やといふべきをやえといつる
俗多し。ぞうこれふしハ女のるりをしこ思ふべきぬし。一そのさこハ。

指をこつて。をこえそそこ杉ゆこ杉ゆ年月をかぞへて。そうあ杉ゆ
を思ふふぞが成しこ思ふべきここハゆ什変の一ふ杉ゆこえそハ
あうえ和ふをなうこと。次のうふえ恨こぞこいあも。世こあてこそ
ゆうう杉也。ほを誤し。ゆ杉ゆ白こ也のこ杉ゆこのこ杉ゆば。これ一つ
そえとそそうべうを。やえこいふべき俗うりうこ。古人のうふさやうゆ
つこあきこいハ杉きし。
あくがをまかりうこあ　曰　方れ女のかこ。をひありくし。ちくぐれこハ。
ふよるべこ思つる女りうこ杉ゆこ有し。
又おうりうを　ちのこ　ふゆ女をおきこおふハ又し。
そぐろちむくやこ　曰　こうひのこ俗。ぞうゆいぞこ。風流うんあこわ

さ。うちうきがくて。そぐろくて。えうくしとし。
いぐ。ぶつるとうく　同　きたれ乗ハ。んやうく。うちうきてゆる。至てそよろと
と。ふひて。うれ女の。ふ〜ふ。ふうく。かく。ゆうきもんぐ〜ゆくし。
なまく人。ふうく　同　やうけちあよハ。俗ふぐ〜やらといふ。ふろ。だへし。
さうじと　同　和俗の例。ソノホンニンと知人といふ。ふ乗れ稀し。正身の字ハ。古書ふ
もをかく〜てしわ。
ゆうきだめるせうとと　同　るゐを恨とうきまぢんきるやうけ俗
ふし。俗ぢ。ぐて〜し。
ゆうやぢもりふ　同　海ふ。直隠（ヒタヤゴモリ）と。ふる字ぢぐ〜。行のいるとふ。ふる乗
ふとなて。そのかく。いふて。ふとふ。ふ。ぐ。ぐ。ふかく〜や

うけうとし。やとうふ。うもりといふよりて。ふのうとより生ふる。ふう。
ゆうぢ。うとと稀とうく　ゆうる。ゆがゆ。ゆし。うとと稀と。ゆを。ふる。ふやく
いふとし。ゆを。女の。ゆと。ふうふハ。ゆぐ。ふし。ゆとハ。ゆを。といふ。ふ。ぐ。ぐ
らるを。ふ。ふれを。ふ。他（ホカ）ふ。ふ。ふを。ふ。男。ふ。ふ。ふ

やもをしいつし。上下ぬ田をよう〜ゆひをそ。ゐるべし

かぐやう〜かぐや　古の翁〜　てゐが方よりかくいふ。その女すぬあぐや

ふあをれし〜きぬいふし。侍ほうぬをんど。

のどふふゆひをうば　曰　方〜へうつをんをやめて。ちづふおちつくばいつし。

ほをびきて　曰　ゆを田ぬ。翁をりのふ仰とといつふよ後〜。

さぐうをふてをりぬべく　曰　を上をくをへどうをとそのまくふてうわうんをし。

ぐふをの〜をうを姫のを〜　曰　こをハを女のやうをやをて。ぐふをの女うを

くものをうをじ〜。女のをべてのをへをはをん〜をる田をり。ぐで田保をか

をのををほををるふをうをうべ。ふ〜きをいをハをで。をく田をいをんを

をの孫のをふて。その後をいをんをて。上の後ふをりて。女を立田姫をハいへ

ふをり。

をうをき花をみぢをいふをる　曰　いふをハいへどものをう。又をかるき

田をりいふ花の紫ををいふををべ〜。をて山をハ本書をををを

むべき女を。をりをを行をる。ふをうぐでハをり〜かるべきよりふをいをるて。

をうをき花の紫ぐふを〜　曰　ハをバ。をて書ををべき女を行をるをを

ぐをををいふをを。後をを上ふ立田姫の後をいひをうををりふ〜の

色をうひををうふをづを〜て。ぐで物保をを〜んををを保を。後し。をり

ふを色をあひをハ。花の紫ハ。をを〜色ををづる田をるふふいをるふを

あを。人の田保をる色を。ぐを〜べ田ふいをるふハをり〜ぐで。をハ上ふをををきあ

ぐををを。をををををを〜をいふをり。をるををいぐをををを

ふまでを。えべてうきて。花紙をとりてべゐよいてるし。うと成てゐ物ふ
るものゝめりてべゐてハ。法の法ふ。さふふりがゝ成事をとゝうゝと
いつゝて。物つゝかゝび。物ふることゝつゝかゝれしばり成でがくいつふ
べきふあゝび。女ゝ分のうへ乃。えべてゝゝすゝてゝて。法の仏法もよゝか
あへも。又ゝゝ河の仏あゝゝゝ法も。えがゝとし。
ゝふよりゝ 曰 仏ふ。まゝて書ゝとえべき女ハたゝゝ行すもゝゝでゝ
ゝかゝるぞゝいふゝ成。ふゝえゝる和し。上の河ふ。その立田姫の移ふゝゝ。
ゝゝ女をほゝて。花紙紙ゝゝべ和をいつるふて。その物くめゝるゝゝゝ
笑ゆゝし。ゝて。ふく。えゝゝ成ゝうゝて。ゝるふりゝいふし。
かゝゝき事ぞゝハゝゝ 曰 書とゝえべき女ゝ行すもゝゝでゝ行ゝがるべき

ゝえぎ物ふゝりて。ゝやゝゝ女ゝ。ゝえがゝき事中ゝて定えゝるゝゝ
ゝし。仏和河月又ゝゝ河ゝ。ゝえべゝゝ女ゝゝ成ゝ。ゝふりて。えがゝ
ゝゝ。ゝゝ女ゝ。ゝゝゝゝて。ゝ女ゝみがゝゝゝ成。ゝゝていつる
ゝゝゝがつゝ。又或ふ。嬉妬の体ゝゝ成。ゝゝていつゝゝゝがつゝ。
ゝゝゝゝ女のゝふ。ゝゝゝゝほえゝる和て。ゝの方成いつる和ふゝゝ
ぞ。定えゝゝゝゝゝゝいつゝゝゝゝ。ゝゝ女のゝゝゝゝ行すもゝゝゝひゝる。
ゝがゝき事中ゝる成ふ。定えゝゝゝゝゝゝし。法の河ふいひゝやゝゝふ
ゝいつゝを。ゝて。ゝ女ゝゝ。ゝゝゝほえゝる和て。ゝの方をいつる和ふゝ
ゝる成ゝゝゝゝゝゝ。ゝて又。河月ふ事ハ定えゝゝ成和ゝゝゝいつるゝい
みゝ成。えがゝゝし。定めがゝゝゝハ女ゝゝふて成。事のふ和ふゝゝ。

はしのよるべもなくなびき女はさぶらひ給ふ宮中ばかりにて宮めぐりきし。
ゆゑあるべくもてなべく　はこのもとに　人のもとにふかきゆゑある女にもゆべ
きにあらずとし。
えきこえもうけき　曰　えハよくもきこえ給ふ。女ハ琴を
ひきこえもやし。こゑはいとめでたくもてはやされ給ふ。
年月をもてあつかひ　いつかハ
まろをかよひし　曰　あく日ふ。太内よりといふハいとまれにきこえたまひし。拍子
のこゑはよかりしかふきよつひざをもたまへるほし。
このさぶらひものを　曰　きべてかのといふべきなり。このといふこと多くハ
あくべし。ふふこもやこのこゑもあるも皆ふれやうなし。

うちうちをしるかくふて　曰　人やうにて琴ふしてし。侍ひ女ハ老ひつるハいと
ばかくろへ　曰　本拍女をし。
ちちこ酒をゆく　曰　うちこ琴ハ琴ひ人ばへし。ちちこ拍ふ。ちづくく
琴ひこといつるハ。ちづくり。
この人のいつやうくくにくきこそ　曰　こまハるなが本拍女の琴
をよろしくもひて。殿上人ふいふ侍し。ゆるを苦よりこれを殿上
人の侍ふ人ふいつぐ。さハ此琴ばくくさ殿ぐこの人のい
ふやうといふハ。ちこの人ふくきんを殿上人の侍ふ人ふ。
ふをのふ改えるうちのく侍ふるかく殿上人の侍ふ人ふ
ふもきべく。もくこの殿上人の侍ふ時ふ下ふ。もくより

きるんをかくるゆやをりたいてるるがあり。きかる。待ッ受で
のわるく。ゆふいひ〳〵んまいらんハ。もしらりけすはとだ。ゆや
まりもるで。給ふべくもたつ。そのうへうと殿上人の侍ふて
といふ辞も下ふ〳〵侍有ます。おのもまたりハ殿上人の侍〳〵ん
はて。ゆそそけすかふ。そなるざるふはるふはどいふ何の。ま〳〵うと也
あ〳〵。ゆるやう〳〵考ふとべ。ふふ殿上人の侍ふてハ。はるるで。馬
はが侍ふて。そてハ。下の下オ下ッ侍ぬ〳〵いふへ〳〵ま。辞し。殿上人り
ゑゑいひて。車よりおる〳〵し。ゑもバけ侍ま。ゑゑが。て〳〵いふ下へ
うつ〳〵てんはべ〳〵。

けなけ氣ゑゑ〳〵 ㊐ ゑゑハ。と又し。ち如ゑけ氣ふゆ〳〵ふけ女の氣と又

氣〳〵ゆ。ゑゑ如ゑけ氣ふゆ〳〵ふけ女の
氣ゑゑ〳〵。ゑ侍ぐ〳〵侍のゑゑゆし。
あ上侍りぬ〳〵 ㊐ るは車よりおる〳〵し。ゑ〳〵上のこよひゑ〳〵の侍を殿
上人の侍〳〵て。そゑを〳〵へゑて殿上人のおそ〳〵ふて。ハ上よりけ
侍ぐきかるゑゆ。
ゑ〳〵べ〳〵のへ〳〵りきる氣 ㊐ ゑのゑ〳〵 かゆてよ〳〵問ふを侍つせおきゑるをし。
ゑ〳〵ゑを。今ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑて。ハ下けゑ侍わをせゑ〳〵〳〵いふて。ゑ侍
ゑ。又そのへ〳〵いふゑゑいぐ〳〵ゑし。
いよゑんき〳〵ゑる西のゑる ㊐ 弄元ゑ〳〵。給ゑゑ〳〵ハ。ゑゑ〳〵ゑし。
祢〳〵ゑゑ ㊐ 祢〳〵ゑ〳〵ゑ。給角ゑ。ふゑべてやゑ好ゑ。祢〳〵ゑ

ゆゑ也ば結ぶ也。なごかく袖さまゝがやかゝきかたしなふこの
ゆゑかふ。なごもをり。さて袖ゆゑ。袖ゝゝいふ言ハさべゝつゆみ
いなごゝ。涙ゝ妬忌（ヨメ）むこをかつのびゝ。ゞ時ふのゞゝて。かゝゝゝふ
ふいゝ。ゆゑ人の。ふむひゝいふこをする。ぬぐふゆをて。
その時ゝ。うゝゝて。をゝちをゝ。ぬどふやゝ。ぬをて。ゝを。
ゆゝふゝる。涙ゆをゝゝいをゝ。ゝちをゝゝとふが。袖ゝゝふし。
さて。袖さまゝふ。さやうふ袖ゝふをいをし。
きゝをやをべき人 日 殿上人。うづゝぬをし。
あをゞゝしふゝ 日 ゞ殿上人をこよひ。ゆゝべゝ。ゞ月。何もなゝゝ
ゝり。本袖ゝ。ゞむべき。紫もなゝをいふ。何のをゝてし。

まバゆき 昔の人 上をふ日ゞをし。
さるべきゝゝ。袖て 日 をうゝてをべき。ゝゝてし。
ゆゝの。ゝふ 日 ゆゝの。ゝふ。女のなびきをゝゞふし。細流ふ。ゆゝの。ゝふ
だゝゝうゝハゝゞり。
いづゝゝふつゝてゝも 昔の人 いづゝふゝてをし。
ををもの。袖ゞゝり 日 紫式ゆゝうゝ人ふゝゝをを。早下して。かゝハゝるし。
細流ふ。夕ゝ上のゝゝし。ゝ袖性。ゝうをて。癖をゝ方ゝうゝ人ゝとゝゝうハ。遠ゝ。
もてつをゝゝむをゝふて。て 日 ゝふハ。袖ゝゝ。ゝひゞゞゝ。
て。その色を。袖ゝゞ。涙ゝふ。ゝゝ。涙ゝし。をふゝゞゝ。
紫ゝふハ。つをゝゝ。袖をし。紫系列をゝふ。ゝふ。袖ハゞゝし。

あと絶るすもなうれや　はるばひ〜　源氏ゐの・ゆ〜ぎふとひ・ま・ふ
つ・ま・て・いるとよ・さ・て・俗ゑ・ゆ・べきかぐやけ・ま・ま・なうり・し・よ・ま・し・
ま・ま・ほの・ほ・ろ・し・
出ぬ・ま・ふ・き・わ・つ　日　出ぬ・ま・ま・ふ・ま・ふ・ま・ま・ま

ゝとしぬ人ゝとつるゝ。ゑづてゝし。

ゝるゝバうれさゞれものをゝゝらびゝかりぬべき事　日　ゝゝとよりゝ又ゝる伝

が伝ゝつゝ伝ゝ中ねの伝ゝつゝ伝ゝいづゝもゝてがゝ伝ゝゝゝて

さゞゑゞゝゝを。ゝみ伝ふゞ義箱のいゝゝゝゝれゝゝゝ下れ者ゝゝ

ひのひぬゝつゝまでハまづゝる伝のゝつゝゝゝゝゝゝゝゝ中ねの伝もゝり

上ゝゝハ。向ゝ義伝ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐもく形きもうく、ハ、ろ〳〵いつるゆて、はた新出のやうふとつふきし。
うくがひうふべるなで　曰　或ハ、別人ふ人をうゝやるこの新ひしいつり
弓中や　曰　やをよ。はちうし
うくべぐく　曰　こまぐうりてえても、かをうるて、えても、ふゝふ新あ
ゐて、ふふりかるひぐうにえうし。
吉祥天女　十八のひく　霊異記ふ、聖武天皇はちゆ、信濃ふはちうぐ
うくが、和泉ふはち血停の上山寺形る、吉祥天女の像ふ、涼く見ひ
をうきて、うくせくうゆ、西、又狭衣の袖信り、まぐかく流てハ和
うりつる袖をいうぐうと形るた吉じやう天女形くも。
ほうぐまづき　曰　信松中納言はち袖信ふ、ふび色かくぐえ形ど、ひまく

かさゆて、うちやつを話へる、いほくくふ志やうぐ記くんよりも、
形ゆえうくゆ、ゆ、ふうり、信ぐまづき、くふうぎふなりてうく、
行ゆ沢うりやゆん　曰　ゆと、ハ信ゆ〳〵記る形ぐはちる、信ゆり、何
ゆ沢信ゆを入ゆ、ゆ〳〵ぐとつふきし。　信信ゆぐり。
ざえはちきえ　曰　ざえハ、才はち字の吉形ゆぐと、和信り、つゆハいづもと、
才智はちゆふゆ、ゆ、信ふ学問のつる学問の形き形ぐつふ、学問のすし。
きゆゆ〳〵際えて、学問の信ほぐ〳〵いうんぐぐ〳〵。
いくきよぎふ　十九のひく　彼ゆ沢ゆ、ぐ〳〵形て、ゆゆのくふ半紙をつふし。
さい〳〵　曰　書ふゆて、くハうぐ書はちるをつり、吉ゆ系のうふ、弓中と
いふふべの美ゆ、ゆ、とあるも、印、ひハ本形ゆを、美ゆ、くい

へ承と同じ教の意也。くゆる河ふちハそこてつふ泡といつるハんなぎ。
なまなるうるうん　日　おまハ上ふおよ人ろくとを おまふ同じ。ろうを。
ろうぶをしるるまひも。
をうおしらをしと云ふ作る色をバ　日　けゝへ如をさの学四をぐハおを
くてをけりぬべきものぞ。いふをふらめる法し。そハ上ふをうぐ
しくをうをるけらしろをハ何ふりハをさせおりんといつるふて。絵ゆる。
をのこしをなんをさんなきおを作色る　日　ろ細なきをいふこんなぐと
きを上ふおけつぐきけ鈴をもて。よく考法り。何の一物しもおき
よしてこうハ学四をどなき絨いふし。そてもべてのをこハ学中ふハ。
男ふてもこう。学四なき者ハ作るしといつるて。きて如を。学四おく

をもなてふてをうけんのををし。法説みる。ふ細といふをふ泥を。
たくけをふおをぞ。
をおのをうをうを色きて　日　俳優色きる歌をてし。西宮記り。右
近衛内蔵冨強長尾末強。善散樂。合人大咲。鳴呼者也。ほふ。
をう記をうへるをもしといつるハ。ぶがてをし。こゆ。沼るも。ふ。
ぬびやう　此の毛の　腹病風病二説のうち。風病のをよりかるべし。
春記ふ。長暦四年四月十四日云く。今日始服韮草。依風病也
とあるを。をてふぶやう。ぐ孫ちけをうやく。ざうじら。おぐ。女のつふ
ぶき河りけりぐる。此女をもべて。せうをを。ふもかんをくつふ
ものかきをぞ。といるるぐひる。つをの和いひる。おをぐくく

ちりぶちちるさるぶてさふかくもるし。仕相法もべる。ゐるし
の相儒者の相ぶぐ。おのくそのんだんをもると。んをつくべし。
なるべるハいもるを作るむ。日　蒜を服しるるものいるるそんづき的
くぶハまて。何ともしるるぶだき相もなきし。
あひて。日　遁てあて。跡より人ふ進うきさせて。代ぶ法やるし。るるこ相ふ。
仕女おひ出てるいるハ色ぐるこし。おひてとハこづるるても。跡より相
もる沖いふ俗ものを
おいるふるる。日　俗ふ。ぶんぶやうふるいるれるさやう
のむるつまに女るそいむるりハ。ぶんじやうふ畧るそひぬるる
るまるるる色るいるし。俗ふ。まるやうふるるとまるるるるる。みる

あるるぬるし。ぶんぶやうふ腹きるなぶ考ふるふれ。おいるふるい
ふるるる行るる相し。
何る色　此一の色　何海る。淡（アワ）るるるるる。淡（アワ）るるるる色。るるる
みふるむをいふ相し。色を留るて。拒るるいひ。又いる色ふるむやうの
んぶぐるるハ色ぐるし。るるる相の發（アバク）るふ説もいるるる。
これより色づしきるハるる。日　るるも。まるめ紀ていふ相し。
むげふるるぶるるるるる。日　学問のまぢをし
まるるもかぐるるむ人のみふもめふもるる。かぐるんる色切べし。
るるるる学問るるるハせひぐるまるるかぐるんる如る。学の人の耳
ふるる相。色ふるるるるるるるぶハおのづるるおるるべきるふて。色づし

かゝ孫でゝ見ふるゞりほうるべきこゝろあてゝうゝびこのきし。かどあ
らん人のこゝつぎてゝるハゝるゝ。かどゝうらんハゝ女のすゑて人ハ弓の人し。
ゝよもゝと思ゝる人の　日　孫ゝゝあよゝゝとゝ人ふゝ思ひおこゝゝる人し。さて
細流ふゝゝよもゝべき人のゝゝゝし。ゝゝうるハゝゝゞり。こゝハゝゝゝるゝい
ふゝハゝゝゝ清島文のゝゝゝゝゝゝ。清島多のゝゝハゝひもゝ
やゞてゝゝふゝゝゝゝ　日　孫ゝゝあゝゝゝゝ。思ひおこゝるゝ人のせゝゝゝこ
ゞゝかゝふゝゝゝゝゝゝ

つゐいをふあいをるとつふこし。さてこゝハ。ゐ月のきちゐゑくみなをえん
ふゑくを。合をていつゝゐて。いそぎ糸門をゑんくきるをゆ。かゝき結を巣ぞ
孫をゆ形どゐて。他へをんハちくしかゝぎきゐ。そまゐ仙つゆぬいゝ形ゑ戒せ
さをゝるしいゝ形ゑハ。返ゑ戒掛ぞるをいふし。
さ形ゝでもおのづゝゝゑゝ　曰　さ形ゝでもとハゝ形ゝぞ。ゑ日形ゝぞ。
ゑ日ゑて。まづゐなゐて後ゐよみおこせゝゆゝ。よかゝべき相をのゑこし。
おのづゝゝとハ。まづ菖蒲の相ハ。五日。菊ハ。ゑ九日ぞゑ時節ゆ
てハあをどゝ。よゝや。ゑ日ハゑて後ゆゝとおのづゝゝおゝかゝん
のゑ。ゑていゝゆ。
ぞゐ後ゆゝ思へぞ　曰　ゑゑをゑ後ゐゑて是ぞし。ぞゐとハゑゑゆ日

んゝてゝゐゐ。さてこを。後ゐ思へぞゐゝ。後ゐ思へぞとハ。二つゐゐてい
又此所の語。さ形ゝでもおのづゝゝ。後ゐ思へぞとハ。二つゐゐてい
へるゐて。後ゐ思へぞさ形ゝでもとゝゐをゐゝゆゝ。かゝてゑのさ形
ゝでもおのづゝゝと。後ゆゝ思へぞゑの二つを合をて。おゝゝゝをゑゝと
更ゝる結ゆゝを。後ゐ思へぞおゝゝゝをゑゝゝをつぎ。又さ形ゝで
もおのづゝおゝゝゝをゑゝゝとつゝゝをし。をべてかやうゆゝと
ろ。ゑゑゝゐゐ。てゐをを形ゝを。おまゐゐゐまゝゝ。をべての結のを
をんゐべゝ。よゝをぞハゐ。ぞきぬべゝ。
なゝぞかををゝ　曰　なゝぞゝハかゝ。ゑをハせん。さてゝゆゝをゝとゝゐを
ゆゝ。さてもゆゝをゝとハゝのゝゝをゝもあをかゝゐて。結ゑゐ相

をせどしてやむを、まゝふるといふ色し。ゐ形ごともよみてやら
ぜ行くもきぬしてけるこゝろなりし。注侍し。
こゝはハゝゝびゝゝ　日　こゝはハゝゝびとおぼゆるもなゝ。又さゝゝを
ゝゝ形どいとでハこゝをハゝいつゝいぐ一本ふこゝをふとゝゝうちき
くふゝいぐ形るやうなゝどぐ。ふとゝけるかゝゝゝるふや。こゝをハ今
る形の編ふよゝゝゝゝきて新ふゝ侍をさゝていふゝゝきバ此編ゝ
よゝゝゝゝるゝゝゝふゝゝゝぐるゝもなゝゝゝるゝもなゝゝゝぐゝ
よゝかむゝふべゝ。
さかゝゝゝいゝゝみゝふゝゝ形ゝ侍　四三のひゝ　こゝをハ又一人ゝが中を侍
ゝゝゝのゝゝけきゝゝゝゝへ侍ぐゝる沈。源氏ゝの侍をゝの中ゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ抽し。二條院ゝゝゝゝゝゝゝゝハ源氏ゝの侍し。
ぐゝゝゝゝゝゝ紀伊ゝが侍ゝゝゝゝゝゝ　四四のひゝ　乗ゝゝ紀伊ゝが侍ゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ものや　ホ六の条〜　身屋し、身を、左へハむくいつる俗多〜、さてむくゑ〜
ゐ、ほふちう〜、ほふ多ふ、ほふて、ほ多くいひきる説、毋字を借りて、毋屋と
もゐる、そハ母をあるくいふ俗ふ借りて、ものくし、おもゐの義といふ
説をゐる〜、さて身屋とハ、屋の内の真中ふ立て、主〜いふ所ゐる
ゐ〜ものゐし、俗ゐふゐ、祖の真中説、彩といふゐ同じ。
ほ〜ゆゐ、ゑて　日　ゐ〜ものゐハいまゐ思ひえぶれゐ、ゆゐむこゐ、ゐ〜ものゐ
ゐ、ゐを、ゐ〜〜と、ゐ〜ゐ、ゐ〜ゐ、ゐ流ゐ、ゐ海をゐ、ゐ、ゐ流
孟降ゐ、ゐ、ゐ〜を、方のゐふ、ゐ、ゐ、ゐ

殿上はやぶる　日　殿上してうる所。殿上のうへ。とうるぶのこと。
伊勢物　日　上ふいるはもの。の略。花をふる。ものの所。逆ウ
て。物といつる。と注。さ〜。強。ハ。ものづり。寒。物を。上ふハ。
いつる。さべ〜。物をる〜いふ。つめ。と。物を。書。物。といつる。
こと。〜。注。ア。生ふ。右。寮。太。邪。を。肺。とつる。も。注。官。物。生。皮。といつる
例。うて。そつる。又。唐。物。を。唐。書。とつる。を。用。
こと。ハ。ものう。や。こ。ものう。　紀。の。書。ハ。いふ。注。ぐ
ち〜。いふ。名。きて。のぞむ。と。定。様。を。ゆ〜。て。つる。せ。ハ。ぐ。物。伊
勢物。ハ。ゆて。書。ふ。〜。ハ。寮。〜。物。ぞ。よ。〜。つる。男。ぞ。よ。と。る。
ぐ。て。の。ふ。し。注。よ。ぞ。き。〜。物。ぞ。る。といふ。ふ。ものぐ。

又上文。ものう。つ。ものも。ふ。〜。つ。ぐ。ぐ。こ。し。
みる下。ふ。〜。　八の。ひ。〜。　宮。ふ下。ふ。ふ。〜。る。ふ。つ。ぐ。係。氏
ふ。ものう。結。ふ。女。ぐ。も。を。御。べ。ふ。ハ。怪。ある。ものう。か。〜
中。ひ。の。こ。し。ものふ。ふ。や。ものう。ものあ。へ。ぐ。ん。といつる。下。ふ。へ。ある
べ。〜。中。付。作。り。〜。ぐ。も。に。係。の。ふ。作。ば。いま。ぐ。え。ものあ。へ。作。〜
ぐ。や。あ。ん。と。中。作。し。
いつ。づ。ぐ。　日　〜。点。ぐ。ぐ。こ。し。
物。〜。　日　ん。ぐ。ぬ。て。も。〜。　日　或。ふ。ん。ぐ。め。て。ものひ。きぬ。が。物。る。ぬ。し。
なぬ。ぐ。づ。つ。きれど。　九の。ひ。〜。　あ。や。る。〜。いふ。ま。で。へ。〜。物。る。ぬ。し。ま
で。〜。いふ。へ。ものか。ら。ぐ。

やとあびあもど　日　茅水一盛ふ。やと。あびえうう参詣べし。
うふ人うも　日　うふ雅ふうけうん人の集つるも。えよびらなし。
けうきまく　早桜ちり　京師のんし。何ふけうび。人とびあり何し。
やとのうきまふふ　日　晩ふれむうへう酒きよというんうそかとよび
うを結つるべし。紙うざれむ。紙ふうう。
うもとびふ人のうう　日　ふもひあうくめ人うんうそも。けうふふ
て。けやうふ人のたうんうよたうふけうじをまてうもとのうし。
あがしうう　早土のひう　杉しふ。下ふけうび。
きうきはとうう　日　やうたまわる女。まわる女。うのきうを
ふつううあてうて結といふし。

うきべきふや　日　かやうふ結思ひて。けうは。ぎまひを結
ふも。結べきふ京師孫ふもうし。
けのちあう結　日　結ふもうもし。阻といふ結をえびうし。
えんぎう酒しかびうう　早土のひう　既ふ寒ふまううえし。うてかう毒
うるうふ。京師のしあふうん。んびううれびも。毒えびふ。ちをし
きうりれんうあびうし。　結ふもびう
なびうめびうう　日　京師のんし。孫氏ふ毒をしうれけうれうきを。
ひふあびうきんとうもびうも。れびうきがううしうふし。孫氏ふ
のなびうあ結へびうしいうやうふんううふ。ふううふ。
京師ひふううぬやうふ　日　京をうふ男女けうううひをうるうし。ひふ

らねどいつかもくだちなりいつかはなど。

又はかゝしはかのちせもやとゝもう〜 日 そのひてそかゝ〜んなきものの

ふるはなるうも。後りハ又さもかゝびと。又ゑ〜はかふやうも

あるむかし〜ふるさと〜。ゆげんをかぐさむべきふ〜いつるしかぐさむる

を。保氏ゑふ。なるけなきものふるつゝがかす〜ゑをかぐさむる

かり。花をふれんぐ〜あろうかりをもうゝとかるハ。ゆゝ。又ゐの

海ふりもうるうるうさかるうゝのゑハ。万葉写ふ。かふうふ人をいふゑる

ゑ。捷碑乃後碑の山の後もかうんゑ。いふゑ。あぐえゝ。ぬぐ

へゆゝるかるべし。

いとかゝかりかりうゑ孫のほどを 日 ゑハ。更のかるかをバ。二〜び

と。遠見なるべきふあゝさ。殺だかるひかゝ〜ゑを。一変。遠なり

しハ〜ぐかりゑをもうきゝるゑ。繋ゝいふし。京塚のん。始ゝ〜ゝ。ぐ

ゑ。 拾遺集巻二。ゝ巻のねのうゝかゑ。ゑ。ゑびハ。ゝれぐよゝ

ひゑ。歌ゑふ。 宗祇注。信し。

ゝゝゝへてハいつぐ〜ゝれ文ゑぐ〜ゝ。ゑ。 四十三の歌 いつぐ〜ゝ。ゝ下に。ゝを

ぐ。ゑ〜ゝるゝ。ゑ。ゝゝゝハ。信ゑ〜。ゝのゝぐ。ゝ。ゑ。ゝ。いつぐ〜ゝ。いふゝ

ゝ。保氏ゑのんを。ぐふいつゝ。信。文ゝいふゝゝハ。地ゝゝいふ。信ゑれ

ぐ。ゑ。その堺ゑるべゝゑバし。

ゝゝゑゑきしゝゝ 日 信。信ゑ。ぐ〜〜。

ゑ。ゑ。ゝゝ。 日 ゑ。ゝゝゝとハ。ゑの定ゑ。ゑ。保氏ゑふゑ。〜

氣をうしなふ時ふし。強くふかうでハ。強きがわるくて。いきづつき
ざるまし。とりかさなるハ別也。かたうき況強くもひを
立ぬるし。注ふいろ〳〵がんをとりかつきているハ。上流ふかるべ。
ちと〳〵ふかるべバ　日　ちと〳〵ハ。何事ふか強き事をうりとて。ろ〳〵
ちるまでとて。とりとて〳〵ふかるし。歌拾集といふ抽ふかるうり。
秋風ちと〳〵吹来ぬとあるも同じ。　何海ふ事とし〳〵ふるよろ
しいろぎとゞ。ぬしきんし〳〵ふるハ。ふるが。細流ふ。ぐ〳〵とあるハ。
ふかるべ。
こさうじがかうより　四十四のひら〳〵　かこハ紙し。ふかるとて。より。世ふ色ふ
もを。皆同じ。色ハあるを陳ふ。ほふ。うとき紙一立ふるバ。おのづ〳〵

破也。そ〳〵をしるとろ〳〵。穴ふどのふるとりてゆるし。　上といふ流ハ上
ろ〳〵。小陳ふ〳〵いへども。上とりふ。何ふ。ふるがりむき〳〵陳ふを。
ゆべ〳〵もふ〳〵。ゞ。ゞとひをとろと。上とりて。ふをゆ。何ふ。ふるとりもよ
〳〵ふ。ゆべ〳〵ふ。ゞ。ゞとりふ。そうゆ。ふ。いうでうて。
むとりをさ流ふる抽〳〵ふ〳〵　日　むとりハ月ふ。ふるとし。をさまるハきゆる
なり。新ふ地ふ。ふ。物ふ。ふをふ。ふ。ふて。ふる月の新し。を明
のさう。流〳〵ふ〳〵ふ。ふ〳〵ふ。ものし。
何ふをきそ〳〵ふ。ふ　日　そふハ。差別ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
なかい〳〵かきゆえて　日　なかハ。ふるまゞ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
物ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

ちうきは源氏ゐの作せを使ふることゝ思ふ。文ゝで設ひしる系
河ゆてとゝきべゝ。今ゝ世ゐ作も。設ひていふ河よハ。あのゞ方ゐも。ほゝといふ
ゐ氏源ゐるゐぬゞひゐゝむう。
きしうハ結ゝばるべゝ　月　ちべて きしうハうゝばといふゐ。ところくゐ
ゐゝびゝいふゝとし。よゝといふゝとしといるハゝゞり。
ゐ世ゐぬゐひゐて　月　河海ゐ。白氏文系ゐ引きるハゝるゝゝ世きゞ
ゝ。ゝゝきハうゐゝゞゝゞゝゐかの本文をうているゐをうゝびゝゞ号
中ゐいひゐゝうゝるゝゝを世ゐゝるゝひといゐし。
源もいゞきぬ　月　ゝといるハ源氏ゐの作文を拾て。ふゐが出来るゐ
あいせて。源ゝるり。

ゐ考ゝへいゝゞ　月十六のゐゝ　月ひて移ゝきぬし。但ゐ源ゐめもいゝて
移ゞといるハゐ世ゞ。ゝへハ受ゐ世ゐるうへゐ考ゝへゐゝゞといい
へる河し。ゐふゝいふゐ。夢の源のゐし。
ゝゝうえぬゝゝせ　月　更級の書ゐ世ゐるゞりゐ。うき月ゐるゐ。文源
氏ゐ世ゞゝゐるゝゞゝゝるゐ方ゐゝゐゐ。ゐるゝハゐ世ゐのゞ
うきゝゝゝせの源ゐるゝし。
佐ゐ。やうゝるん　月　宮城ゐんをかゐてし。
ふつゝゐる　月　太つゝといふゝゐて。物の太ゝ丈夫ゐるゝし。但ゐ。
ぎゝゝ北んゝといるハ法ゐ結ゞゝるゝゝゐて。ゝゝゐかゐゞて。
いゝつき移るべゝ　月十七のひゝ　更級の書ゝ定ゐ移ゐ。ゐて。ゐる巻の

係氏ゑ形ごへはたらす形どきゝ心ゝ恠つゝ〳〵かゝぢとし。　ぬ色風
係氏ゝいつる注きゝゝゐぐり。
ぐふなべゝにやゝと　曰　家ふハ。よの中ゝ人の色で笑ゐる。ぎふし。
思へゝ〳〵家〳〵にの　曰　係氏ゑゝ色ゐゝ〳〵ゐきてしゐる海
じたゝゝいみ〳〵ゝうきゝふ思ゝ〳〵。宗旨の。ゝ時の家〳〵きゝ形ゝ。
注ふ。係氏を思ゝぬゝ〳〵ゝ〳〵ぢゝ形べ〳〵ゝいつゝハ。ゝゝゐハゝ形べ。
ゐゝふまゝで形ふまゝ形〳〵て　四十八のひ〳〵　ゐゝふゝ。ゐゝ海〳〵ゝ
へゝ〳〵ゝ。係ゝまゝでゐふゝいふゝハゝ。ゐ〳〵ゝハ。忘の方とゝ
ぐ〳〵ふゆゝゝま形をして。
やゝとゝ形ゝんぐゝゝ　曰　係氏ゑの。此ゝ。ゝぐ色ふゐ〳〵ゝ〳〵

ゝ〳〵ゝ。ゝゝせきいゝて。ゝぐきゝ法ゝ形ゝゝ。人乃ゝせ〳〵ふゝゝ
て形ゝゝバ。又ゝ代ゐ形〳〵ゝ〳〵ゝゝ。ゝゝ形ゝ。ゝゝ形ゝ面目ゝいつゝし。
人ゝ形きゝゝ　曰　注。一説ゝいつる方ハ。ゐぐゝし。
まゝ色ゝゝバ　曰　人ゝ形きゝ海ゝ。係氏ゑふゝゝんゝ。ゝぐゝ〳〵くて
まゝゆきし。注ふ。人のゐゝゝゝぐゝ〳〵ゝ。ゝぐゝ〳〵ゝ。
注ぐゝ。ゝ〳〵ゝ形ゝ　曰　かゝゝゝとハゝゝゝゝゝ和をいふゝ。又ゝふゝ注
ゐ形〳〵ゝゝふゝゝゝゝゝて。かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ形。後乃人。
ゐゝゝゝ形ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬようなるよし説 曰 ゐかなるつぐるよし。注ふ不用不要なる字を出して、ちかのはしをふ解とるはみるかなるつぐ字をさしもるべりとど。ことハ物〳〵説、又不識〳〵ちれるハ結〳〵らるし。

ふかぞなし〳〵ぬる〳〵 ちかはもり 上句ハ、文領の書と定まれる賤き名乃うさふしは人のん拾遺かくはぐ〳〵上の文より、ゐのおぐしをいとつきあるべく思へぞ〳〵いとかくちふ定まりやる ゐのおぐしるしでう〳〵などうるとし。注ぞとふ〳〵ぐよりとが定まりるゐなとばとのこいつるもかなちぞ。下句ハうるふとかるまぐ思ひきやるよし。さて此の句とき思ふも寄本妙源のうらし。

もとまし〳〵 曰 不無に おぐをし。ひぐきなくこいふ注ふ。なるぞ。

かしこぎふ〳〵すも 曰 雨のうあむさ〳〵〳〵て、人ちるかさつぐひめて行とバ、さる雨へ入とを〳〵むさ。ひまりおそと多きよ〳〵ゆきるふて、雨のさるは源氏五へ思とるし。拾遺の説ゆ〳〵かるらし。

おぐさるるぞ 曰 細流り。らぞ〳〵ハ紫式アヨが出るるを、ちるせぐのゝえし〳〵ひるハ、るが〳〵り。ちるをぐるてハひ〳〵ぐ。ぐおとるるふおぐ発きる泪て。うやうか説ヨ伝へるり〳〵。芳抽庵ふ。るる泪し。

空蟬

おぼつかなくなるとかなり　二の段　孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。

学ばせる人を、古何づくしの、定まりの者なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。

ぬぐひ小家なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。

孔子を学ばせる所なり　四の段　傍側飽足なぐ。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。

家にあて、孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。

かりて、家ハ歯（ハテ）ぐるき畑し。家ハ家にて、孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。

男ある人の好きバし。

孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。孔子を学ばせる所なり。

さかゝ　日　さやうぞうしかるしゐハ本下をへて仮くゆきるこゝし。注ふ。
さとゝかゝんくしくいつるハこゝもゆがつて。
ふゆくこゝろ定て事を　七のひ　屏風をかゝうくくくよせて。畑たちて
ろを居くゝるしゐ。ゑろぎてハ。風の吹ちゐたべきそ波。高くこゝるこゝふ
てゝるきべし。　人ある方ふゝうこゝいふ傳注を。ゑがてこゝし。そ源氏
えのへかふべきそを。ゆきんくえし。　結きふゝうこゝゑろ定ふふてく
きゑ事を。ゑろ定てくゝ写くゝ。湿るゝうして。そのいゝうきをいへどいなど。
下ふ屏風を。ゑろ定てくいつるを。立事てくいつるを。知らど。ゆくこ
よせくるかの屏風を。火あうきゝ方。ふゝ引。ゑろぎるし。
爰はやう形ることを　日　此を。もど。下ふうきをる。何をていなど。のくいつる

ぬき結ることや。
身ふくゝき　へのひ　退の字ハ。こゝふゝくゝ。ゑがてこゝし。
なふくゝゑく　九のひ　きぐ先ふ。ぐゝぐのくきふし。こゝる注ハ。何ぞ。
花ちふ。よつゆけちふ。ざゝふかくゝ。ゆんるべくゝ。こゝるぞよゝくき。
きべてけ。何ち。結ふ。ちんのるもゐ。なんでも。ゐいくゝいふこし。
ぬぎきべくゝこゝ。こゝやこゝこゝぎみを　十ぬ　一本ふ。ゝいるぞよゝ
きぬぎきべくゝ。こゝこゝハ。源氏ゑハ。ゆゝうふゝ。知ゆふ。まぐを。ゑバくゝ。
ゆくゝいふ何。あるべゝれぞし。　結きふ。日本紀の垂髪(スベレモトドリ)于背を引て。
ぬぎくゝれるくいふんしくゝいつるハ。垂字にゆげゝる。ゑがてこゝし。衣を
ぬぎきべをくゝいゝ。いぞゝくゝゆくくこゝハ。くゝ。

あらびこうもへ（日）あらびを。信濃ふ。いや何ぞでもあいといふなし。
宣しらいかぬおもものゑ（日）ゑくはあらぬゑをぞちうあ。背（セタケ）も
のうるきをしぬいぎとていつるゑくし。備後ひがくし。
うへふやさゑふひゑひつる（日）或物ふうへとハ主人のおゑ〜国を取るさ
していふしといつるゑ〜。備後ふ。書女をいがをていふ泊しといへ
ゑハ。ゑがつ。こハ書女をうへとふゑこし。次の文ゑ。ゑとふ行つる
といつる。下（シモ）と対へゑんはだし〜。下ハ下（シモヤ）なし。
まゑゑ人も（十二のウ）〜ゑ。ゑがこし。
ふうつをゑ〜（仙）ふゑ。接遣り。伊勢集古本ふをゑるふや。
今考ふ。ふるゑはし。うつをゑ泊ふゑ〜ざゑバ又ゑる

ふゑやおきはゑ。此ふのゑ有。古人おゑ〜接じをゑかといつ。今思
ふゑ。此ふ伊勢集にをゑハ。ふの海ふ見ゑゑ。後の泊ゑとハそのも
とをバ取ゑ〜ぞゑ〜て。ゑぞふの海ゑよりて以へをバ。伊勢集ゑ
ふゑゑいつるゑ。ゑがゑ〜。さてふの海を。古ふ泊おゑ〜ゑゑ〜引を
ゑゑゑぞひゑぞ〜ゑ〜ゑをバ。こをゑゑおゑ〜ゑぞへゑてゑをき。此
ふゑ〜かの集ゑ古本ふをゑを〜ゑゑと思ふるをぞ。此物語の例を。
古ふを今ゑふかして入をゑるゑ〜ゑ。ゑをバふの海ふ。他の泊泊のゑ
例ぞをゑぎゑをゑハゑゑ。ゑこをハ京塔の跡者ゑハ
ふゑ〜。此ゑふおゑ〜ゑ。伊勢集ゑ古ふ泊ゑゑ紙のを
ふ事ゑへゑるゑといつる泊ゑ。ゑがゑ〜。此ふをふゑまゑるやゑ。ゑぞ

定嬰の万〻とふよ先るほるかふてを笑し意。考べく仕あげくりのや
う。志ゥ古ゥを。全く一ゑ万ぎ。るやうな例を。ゆきてゆるをや。

夕顔花

も孫〻〻かゝぬ 三の巻〻 ゆ〻〻ふそ見ゑと。ゆきさゑかて。そうゆきをい
ふ。俗ゑふ志ゥゑとをぬ〻いふゑさし。ほゞと。棟。家ふゥ。ていふ。ゑる
ゆゆゑゞ。棟も宗も言ゆゑかハ一つゑべ見ゞこゑわゝゆ家ふゥて
解べき詞ゥ万〻び。
さゑ見ゑ 月 俗ゑふ。志やゑ見ゑ。ふゝはゑし。ほゞと皆しゆゞ万。さ

そぐふといふゑふゆゑゞ。又さゑゞぐふを。出ゆ〻ゑ意へゑをて。ゑゆるもゑ已。
枝も。ゆゑさを。ゆゞ。ゆゆゑを花を 四の巻〻 夕顔の枝を蔓をて。おゆゞれを
びゑゆゑゆゆゑバ。ようゑゞゆゑ。ゆゑゑゆゑふく。ゆゑべきゆゞふ。仕ゆゑゑを
忘てをれ〻いふし。
う〻〻このゑゑハ みのひ〻 ゆゑうゆゑゑうゑゑハ。俗ゑふ。ざん。ゆんゆゑゑすゝ〻いふゑし。
かゑゑゆ 月 ほゆみゑ。ゆゞゑゑし。まゆゑゑ。ゆゑ対ゑゑ。ゆゑて。まゆハ。ゆゆのゑく
ゆゑゑゑ。ゆゑゑゆゑゑゆハ。ゑく。ゆゑゑゆゑゑゆゑゑし。ゆゑゑゑ。さて。ゑゆゆゆハ。ゆゆの。ゑ帆。序帆
ゑゆゆゑゑゑゑゑ。ゆゑゑゑゑゑ

なり〳〵或おろいつるがごとし。

おしはべる〳〵ぬ人乃れを〳〵せ　日　かく〳〵まで学ふをゞ経て源氏ゐ乃浦

乳母〳〵はもとゝハなゝ〳〵なり〳〵ぬ宮業ぞと云ふし。　源ふ源氏〳〵

乳母の源の侍り〳〵ぬ〳〵いつるハ〻はるぞ。

ゐ　ちゝ〳〵あてふゝ〳〵　ゐのひ〳〵　源氏ゐを夕ゐのむふ〳〵〳〵へゝ今夕ゐ〻ゐ毛

も光もそひて〳〵〳〵ぞ〳〵〳〵ゐゆる夕ゐの光ゝなゝ〳〵ゆ人〳〵ハて

ぞんあてふ源氏ゐ〳〵〳〵ゐなりぬ〳〵し。三ゐの白ハふゐ寿の夕乳のむ乃

光をゝへるし。寿ゆ光ゐハう〳〵び。　細流ふ源氏〳〵推入井〳〵るふより

て光の光もそひる〳〵し〳〵ゐるハ〻〳〵〳〵きむゞ〳〵し。二の白ゆてふ

をゝふりはをび。

やう光ゐのをけるる人の〳〵　日　こゝより惟光が源氏ゐふ中に語り

てきゝ〳〵ふゝいふまでハゐどゐりが惟光ふ語り〳〵ゐふて〳〵中に中に

ゐゞもりがかやうにゆせるゝいふし。

ゐよりてゝそ〳〵　七のひ〳〵　細流り此五ゆ、をりてゝそゝいふかりり

〳〵ゝ〳〵りゝそゝもう〳〵かゝゞ。さし寿ゆゝうちまりせてハ。住のゞく

〳〵ゆ〳〵るを又ゆふ〳〵宮の白がゝ〳〵ゆ〳〵ゐ〳〵ゝ〳〵ゆ〳〵ゝ〳〵ゆ〳〵ゝ〳〵ゆ

神二白ゐ毒ハ住のごゝ〳〵又る方まゝわて笑ゆ。
はんざゝゐ　ゐ〳〵ゐ　行　日　指生ふ此何うて儀うゝぞ思ひぬつるゝ〳〵
〳〵りゝいつるハいうぐこ生ハクゐ此はは島那のは方へゝんざゝておゝゝまた
ふそのゝゐ日ふて大球の乳母又夕報をぐゐ〳〵ゝのうをいつる所ふ
はんざゝゐ所ゝハいつるふつそわも。
ぐふをうゝ紀女ぐもゐ〳〵　八のひ〳〵　ぐふゝかゝづゝ人伯先りゝいふへゝ
まり。上ふさ月のつろひよりゝ拙ゝ紀人うんるゝいつるをうきて
ぐふゝハいつるゝ。住ゝぐつり。
まけてやゝ和んを　九ゐひ〳〵　こゝハまけてや空を形んゝ〳〵きん
をゆを一つ為ゝゝゝををふ得る形るべゝ本のゝ〳〵ハ流ゝのゝ。

かゝつゝゝゐ人を　日　ゐをもう形ゝゝび色の得るべゝ。
かゝゝち形ぐ孫びゝれぐ　十のゐ〳〵　ゝべゝ孫びゝいふ言ハえよびのぴの
畏かりゝる形ゝべゝ今ゐゐ人ふゐ人の容をえよゝゝりゝいふゝいつる
ゝりふなりゝのひゝるゝいつるゐ。稚幼（ワカ）きゝゝひのうせてえよ
ゝるゝ〳形るべゝ。
ゆぎゝゝゝいくつゝゝ　日　こゝハゝぐ伊勢ゐゐ事どもをゝはむゝ
おびゝゝゝ。ゐ陽ぐゝゐゝるゐふ形びゝゝゝまぐゆゝおびゝハ。
京塚のすつるゝ。花ゐふ彩陽荻の碁うち伊ゝるゆ。おゐ
ゝゝゝまびゝてゝゝつるハゝ形ゝゝゐ碁うちゝゝゝ
ふいよ乃ゆぐゝゝゐゝゝつるハゝてふゝゝふつづゝゝゐて

〻ゐるをや。

猶まさやうゐるおゝゐをゝ　円　実躰なる事孫ひゝる人をといふ

ゝし。侍従ふ。保ふ忠弟ゝ義なるゆゑといつるハ。とがつ。きゝとゝハあ

らぢ。ゝかゝ風流なる人などゐゝバてゝまゞゐゝもゝふべきゝなれ。

侍ゝ伊ぢやう義をかゝまづゐゝをづゝゝゝふゝをこゞゐゝ

きゝゝ。ゝづゝゝおゞをし。ぞふゝまふゝハ。ゝ様の保氏ゝふをなるゝゝゆゑ。

物つゝゝかゝぬ者ゝゝひゝづもゐきをふゝゝうゝおゞせる何し。

されどよゝゐわゝゝゝ　上のひゝ　上ふいゝゝわゝかゝゝといつるも。冊子地よ

ゝいつるし。さゝゝをゝをゝきゝ。いゝゝゝきゝゐをゞも。保氏ゝゝさ

ゝもおゞさぬゝいつゐるゝゝふゝゝし。住ふ今もゐの先ふゝおゞゝ

先さぬゝハいひおゞゝゝいつるハ。なの先ゐゝんゝいゝゝかゝゝゝい

ふを。保氏ゝのんゝゝゝる。ゝゞゝゝし。ゝ保氏ゝゐんゐゝむゝハ。

いゝゝゝゝおゞもものゝゝよゝゐゝゝゝゝなどいちでハ。ゝ

ぬゝし。

祢ふゝげゐるゝまゝゝふゝ　円　ゝまゝきふゝといつるふんをつくべし。

よゝもゝがゝ女のけんのゝをざわゝゝふゝゝゝもゝ祢ぬハぬゝ

きゝ。中ねるゞふゝもゝゝさむゝゝゝゝふゝふゝゝゝふ祢ふゝゝゞゐる

ゝゝきゝゝゝゐふゝいゝゝゝゝのゝゝれぬひてゝも祢ふゝゝきゝよゝふ

ゝてゝゝゝゐふゝゝゝねをゝゝみゝゝいつる住ゝゝゐゝゝゞゝゝ中ねゝ

ゝるまゝひゝゞ保氏ゝのけゝまゝゝゝゐをゝゝゝゝゝゝ思ひゝてゝし。

きふ〜ひろ〜ハ　十二のひ〜　細流の流ようしゝ多り。

ゑび〜と呼ふむさゝ　日　ほふ。長恨歌句を引きハ。きふ〜ふよ〜ハ

きこえし。けさ　ほきふ　いふ多り。

ゆきをうちうきて〜を〜　十三の日〜　これも。仲秋名ごが。松呼べき

ものぞ〜。冊子地ちりいふ心。

恨光ゆづりうめ　日　夕顔の宮ちすハ。恨光ゝ作せつきて。まゝせか

き結つる。ゑ〜いふし。俗ちふこと光がうをうのとふ。門ど。侍

住ゝ。平勇ちいひごとなり。

なゝ取　日　ほふ引る。方紫ゝ長取〜ゝり。こゝも。長取ゝるべきゝ。

右近の君ゝそ　日　ちそめる。結きふ。ゆゝり。

いそぎゝるものハ　吉のひ〜　花宴。ほふこ。ゆゝ。ゑふゝるものゝ。ゆゝ。

ふ月乗ふいで〜　彩遊ゝるものハ。紫式部日記ふ。宮ゝ。ゆゝるものゝ。

ゑどゆゝ。ゆゝ。ゆ会ゝて。ゑふゝ。ものハ〜ものゝと。一つゝて。

ゆ〜。ものゝ。ゝ。一方ハ。ゆ〜。ほゝるべ〜。ゝて。いづも。ゆ〜。ゆ〜。ゆ〜。

ゑふ。ものゝ。ゝ方。ゆ〜。ゆゝるべ〜。ゆて。こゑハ。ゝるふ。ゆきゝひを。

ゝゝて。ほゝ。ゆふ。

ゝ車。ゝそ。ま〜　日　ゆゝ。ゝ式。ん。後。ゝ。ほ。ゝ。ゝ。ゝ。ほ。

結の。ゆ。ゆ。ゝ。ゝ。ふ。ゝ。ゝ。ゝ。ほ。ゝ。ゝ。ゝ

ヒかきおもて　日　夕新し。

たうしもまかりいるとく　日　ひとりふをもとりうるほし。

宮さう人のうく　十四のひ　人ヨきさう居る者ハいふも永月を抑くも

くるもうるかく歩りかて抑ぎ物をうるもんハうき

うく。ふつふもてやはし。保ふ原の方ハ人くいふをかくせぞくいつる

き。ふがてかり。

人のまいひいとうるあしくうく　十六のひ　ひさまくくとハやうくふ

おかぢきしるこの。苦しきをいつる旧しやうくふおかぢるをさて

いふりハあくしぢ。保ふぢ。

あををうへうをもうく　日　かくまでまりかく。ぢびうう。かふてハいや

しに小ぢ。ふ。ふくつてきまんがし。

まるべきふてそハ　十七のひ　或ハふ宿業ぢてそうくもしといふ。ふ。

ぢるべき宿ふるべるもバ。ぢんあるべきるかりるとやいぢハせん。

くいふをとあるる旧し。

いぢいくんやちきうく　倩保ふ。さの宮ふてよもべくといつるハふがてし。

ぢハさそふ言ねきバ。もぢ保るハ倩ず。ぢべていきれさの保保乃

ず。不知（イザ）又いさうふもぢハ。清（スム）し。さそふ旧のつぎハ保るしぢ保保ぢ。

古書ハ彼宮ふて。いくうふ知るもるぢや。

ねる弟ふうも　十九のひ　ふ。ふがたてし。

きもるる生件　日　ぢきふ。ふ。ふきもるやもとぢ口といつふ旧ぢ。とうる

よろし。細流なり。

きりぐすぞふまぞかふ　たけの中　壁の中かなくハ。屋ぬちなるべ。

百近きこと物ふるこゑ。ぶふるをかゆ。ひぬつるハ。殿の屋くて。かべ

もやゝまぞかきなし。物ふるふ此ぬどハ。狭きなふ。屋ふかく。虫ぞものこ

ゑも。耳ふさ。ぬて。鳴やうふる近くおぞをし。細流、説ハ。ぶふ

ひるをいつふ物をぞ。

んぞこゑる　月　俗云ふ氣のわるゝいふことゝ。夕色上を。むぎふ氣

の物き人をばし。但わるゝぬてし。

ものなきてゑぬどハきてえで　十二のひ　ぞもぞなきなかゝて。ものぞ清て

もむといつる。皆よろし。下ふゝぶおきびる考ふぬうづくぞ。

ゆゝといつるゆて。ものぬ考ハ。ものぞるてゝるきをや。

なをもゝゝらんのゝゝしゝ　月　ゆ礼ゝる考ゆて。みをきゝじぞゝ。

知りふも。ゝいふ但ハ。ものゝゝし。此ゑを唱る。ゆて。本ゑを祈るゝ

を知りふるふてそ。

かやうぬもぞ物ぞもゝ　月　やうぬもぞゝハ。ゑよもむてをいあん

もゝなきハ。未熟なるようし。そてかくいつるハ。実ふ此ゑぬもゝ

く物きよハゝゝ。倒の紫式部が。ゑげし。法おゆをゆぞ。ゑぞ

ふゝなり。

いさよふ月ふ　十二のひ　入りゝちられども。いまぞいてで。ゑぞ。ゆる

かどの月をいふ。出むゝて。ゑぞ。出ざるをもいふ。月ぞをゝ。さをじ

陰云し。また女を男ひやうしに一本か女もとゝなるぞまさる。
いとよふ月ふとゝいへとも女もやうゝ姙ゝいふべからしし。
まぶうやう好るものを云 月 ほふ又の義ふ云ゝ八ゝ好をぞ。
云山のえもちゝ 十三のひ 神二白八原氏ゝのいう好るんまていづこへも
てゆきめふゝゝをもゝでゝいふこのゝとへ月八乘月のゝとへし。
細流ふ山の陽を月をかくとべき所とハもゝでゝなる。をゝハ有。
をいをん 月 何海ふ經営ゝなる先し。えを先ゝいふを三位をさ
んこ陰陽をちんゝやうゝいふ數し。敬命ゝ出るハ心がゝし。
ちりをてぬ 月 いよゝゝゝふちりまるし。
うちなをぞ 月 うちなふを細のゝのあり。そろひまるゝし。

おきねぐこ 月 ねがハ長し。中ふなるゝざるゝいふをさゝし。
いゝをうゝ祭好ふふる有るる 古のひ こをハ下ふ原氏ゝのゝ海
へる河ちまぐひて。家ゝ誤まるゝ絲をべゝ。をゝハ月ゞ倍のつ
ゝ好くをなるうへふこてハ地の河をれだかあゝどいふ云なるべき
有ゝなゝざをバし。ををバもゝハいゝをうゝをぞふあもゝあ。など
ぞををんゝ。
べちなゝ 月 何海ふ別ふ建る屋し別納ふて。大答おこ好をれるゝ
ふゝゝふ寢殿しゝなゝ。細流ゝ。雜舍しゝなるハいゝ。
をふりなゝゝゝ 月 をきふ光なゝゝゝえゝハゝゝ光をてぞをき
ふ祭ゝゝえをバ光をなきものをゝゝ光をゝし。をハあくまで光あ

ゐてくれなどすゝめ　こゝハ源氏君のみづからの
おぼしなりおもひよるれ者ゝ　哀の心
れすをのゝまゝ　哀のひゝ　こゝハ源氏君のみづからの
何ゝもなゝ　哀のひゝ　拾遺ふ夕ゐをゝ　ふるなふんゝなきさし
むひをゝ　ふる雪ゝ　おもをまゝ　ふいつハそりそれをゝ　ふるう
わゝび　けゝ　ゑやゝ　ときふゝ　べゝ　れゝ　ゐゐ　ふるゝ　ふるゝ
しきまで　おるを　うゝ　そゝ　しゝ　きゝ　ゝし　いつゝ　ふゝ　ほゝ　ゆゝ　ろ
へゝ　きゝ　ゝし　ゝし　ゝび　ふゝ　ろゝ　ゝし　ゝし　ゝし　ゝる　ゝも　ゝる　ハ　文よりかゝ　ハゞ
ゝる　ゝる　ゝる　ゝき　人を　同　ゝる　ゝる　ゝる

さいへど　四二のひら　佐ちふぞう　なんがいふてもといふと同じ云
なわ　さいへども同じ　必しも上ふうなるべきにもいふ迫し
た道をきへてのきれど　四四のひら　此もとといふ迫下ふう法師也いで
おかいどの　ゑちもあり　四五　こまにかたちの門よりかけ役ゑ
あつるし　ゑふさうぞくする　法師を奏しかけあしらふて去る
かしこまもえ　四六のひら　或説ふかとじけかしこといるよろし　倩注
きもあり
さうふたかかうさ　四七のひら　さうふたのさまへどいふへうにて行
とゑてのさうふうかるべし　ちとかくハ難ち　ゑし　仏像ちと
いふとし　孟津又湖月の一説ともふるべし

なふふうちとぐ　四八　葬のおどろのる法師ゑのおどつうかく
ぶし　ゑて　事かく　ちなせかど行　ゑて　のくまふふ行
さやうふおどつうかくハおどろべき　ちとぐ　ゑ　倩べきふも行
ぶもどんやちゑ　ゑ　ほしし　ほうもあへり
ゑいぐ　四九　ちまねるとハゑへどもといふ迫ハ退ちとんかさ
ゑ　ゑどちとけ　ふいつるぶ
ちで今ちうをゑでハさ　四八のひら　ちで今のとハ今和葬むちを
ゑ　ちとハ今ちうちゑんぞハといふちし　倩注　魂と魄とのさぐハし
おきてし　ちで今ちいふを　今生ハこ　ゑつるふや　ちとふかわ
火ちうちむ　五　保氏のはゑふよわてといふ注いで

かゝ〳〵記てくをぐるゝ抱まて　廿九のひ〳〵　かゝ〳〵しきこゝハいつゝ九さう〳〵形とば
そゝとハそゝとまてしくいふこゝしきべてさるものまてしくいふ相ハ皆ちかり
傍注しぬゞ了り
さ形んよのれうハある　月　芸中といふ抱ちさやうの形らふ号ふ人り
号ひうきゞ係了ふ〳〵やうけるもけゝおわ〳〵けるれうひゞと
あり、そも〳〵此所の原氏忌の語ハきべて〳〵　右近ゞ夕島上けふそうふ
非業形るゞ〳〵ふてうせうきしうこゝを対ふ係〳〵なぎ〳〵をなぐ
さ名んこゝてのくまるれきゞきうこゝを以て解べきし
日う絶〳〵いふものゝ〳〵　月　ゆゝへゞ身老て後よつゝけゞ病て
死る別き形ゞ〳〵もかゝ〳〵さハ月ゞこゝ来て きべて別きふうゝ

かゝるゞふきハなりきバ夕島のうをゝさのゝ対ふ号ひそゝし
花鳥ふ杜子美ゞ結をしきしるハう形そなゝし
とゝるもかゝ係もゝ〳〵　月　よゝ侍稼のやうふ病して死る形ゞも又
夕顔のゞゝ号ひうきぬるゝ了て係了死やるもそのゝきのやうハ義
ゞゝかゝきゞゝいづきゝ定まれう命けうぎりけるれて別る
孔形きバ手えハ月ゞこゝそゝも　注ふゝうりゝゝゞ元ゞこし
うちかゝ〳〵結へりしゞゝ〳〵　四十けゝ〳〵　きべてうけゝこゝハ〳〵ゞひふお
交ふをいひ〳〵衣をうちうけゝハ寝ゝる時男女ゞひふうちうを
まゞへきるしきバゝ〳〵ハ河原了て夕顔と称ひうし時
ゞひふまゞへぬりし原氏忌のれ衣ゞ夕顔の死骸の方ゝ

きて、そのさゝゐてつるをゝ結つるしきりをつるといふもの、ふ著るにもつゝびおのづゝ死髏り体川を絞て、若しまやうゐてつるまるし。但ゐとゞけ衣をきせ結ひしゞがといふハうちうゝといひきゝ絞といつるゐうゐ結など、又或物ゐ衣をとゞひゐうゐそて、若結ひるしといつるもとゞり、えうつををうちうゝといふそでういるし。

佐ゝ結ゐど　同　結きゐ仕境ゐ、さてうのゐしといつるよ結し。

ちゐをぬべきゐや　同　結きゐいつるゞゐゐゝ。

まゝゐゐ結ひゝ　四十一のひゝ　但、一説といつる方よろし。まゝゐゐ。

ムゝがり結へゝ絞るゐし。

まゐりゐゝへ　同　ひてゐ、夜のいのりゐゐ祭祓といふゝ、ゐゐゝ足

るハ陰陽ゐ結ゐおこゐふゐゞし。

京ゐ老いゝ結て　四十二のひゝ　経管し、俗ゐ老いゝゞ、まゝゝ仕せ押し

ゐふといふゝ。花ゐ細流ゐゞ

ゐり、おゞゐゝ、京いゐいゝといふゝ、倒しゝゐりもゐし。

ゐゝ仕ゐみゐ堂よゐ結ゞ　同　よハ乗し、間のゐらのゐゞゐゐゐ結といふ

へゐけているし。云ゝんゐるハ、ゐゞゝし云ハいふゞき乗ゐゞ。

さゞりゐゐをゐゝで　四十三のひゝ　ゐゝでハ俗ゐふゐんぢやゝせゞかま

えぬといふゝし、ゐゞゝ雅ゐゐゐゞといつるゐ、ゐゐ結ゐ

ゝゐゐおゝべゝ。つゐふゐゐゐゞのゝゐゐハやしぬ和ゐきゞし。

れるぶくろをも云〜 同 注一説ともし。あぶくろをつくのまとしるる方
の説をかるべし。はくあひまぶくろハ夕色のおしえうて。保氏ふるん。
こと也ゆあふかゝ。ふるふるふあひあふてとつまくおづて。ふをバ引し
ぬ。ふてゆふてそうゝそと。詞ゝハ中略ひあぶくろ。ふの四ふ。きたて
ふあぶくろ。ゝ。ゝと。ゝ。

つるれとあぶくあひ。ゝを 四十四のうら〜 こをゝみづゝ。ゝたてゝ。ゝをバ。ゝひゝいふ
云。いづかるゝ。ゝあをゝ。ゝ。ゝ。

抽でそ〜　同　孟津ふ。ゑが男みそ。そぐひ。云上ハ抽でみ〜。〜ける。
〜ぐつか。抽でう〜ハ。さべてのやう成いつる物ゝバ。夫ゝ対してもゆ。
ゑか。ゑん人のんゑハ〜いつる。かゑハ云上の人ゝ対へていふ詞ゝハわゝ。
ゑん〜人のう〜　同ナセのウ〜　二の句。ゆわ〜。雲成〜いとでハゆゑ。
ゑやう物ゝど。物〜ゝ。ゆゑ成。おの雲ぞ〜ゑひてゑがむゝバし。結句。
むつう〜きゑゝとゆる。ハ語し。
ゑづ〜しきふこゝも　同八のウ〜　しゆで今ハゝとゝ夕鳥のゆ成おゝを
て物ゑ。ゑ〜。こゝもゝ〜ふし。
ゆや〜やいふゑふゑん〜　同　新編萩の。ゝでふ男女の交をなゝ〜ゝる
ゝ成。おゝの。ゆや〜〜ゑふべ〜とゑゝをし。ゝてゝゝハゑぞゝいふ

ゝ成。おゝふゝゝ〜せゞぞ〜けんゝて。此みゝつゆゝをし。下ふゝれる
ゝゝゝゝゝゝひわけぜゝゝわゝゝゝ。ゝゝるゝてんゝべ〜。ゑひゆけ
ゝハ男女の交をゝ〜ゝるハ。源氏ゑふてゝゝゆゝ〜ゝみゝて。ゑひ会をゝわ。
ゝゝ住のゝ〜ゝてハゑひわゝゝ〜ゝ。ゝゝ。ゝ〜ゝ。味ふゝ〜。
ゝふゝゆ　同　ゝゆハゝゝをつゝ〜ふ。ゝ。ゝ〜ゝる。ゝゝのゝ
〜。ゝ雲のゝふゝゝ〜ゝ。住ゝゝ〜し。
ゝ住のゝふゝゝ〜　同　ゝのハ。萩又ゝゝゝハの。ゝて。ゝハ〜ゝゝの
〜ふゝゝし。ゝゝて。ハ〜ゝ。
ん〜〜ゝ。ゝ〜ゝ。　同　源氏ゑのつゝ。ゝを。ん〜〜ハ。ゝ。住ゝ〜。
ゝゝて。　同　〜ゝて。ゝハゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

中しるをふりてくいふをさしやれるをハ即チそをいひなをふるし。
あかの先をとる　ねりづくとハうれしくなどいふか又ものひもとぎくもをと
ゑをねるべし。
うちらけでむりひる　宇九の初　こをハ元塚のすゑふて。うちらをぞ
て向ひゐるし。新編萩のそのもの歌をおぐ出るふつきて。向ひゐる
ゑ元塚入るをしを。畑くなぐ出て。ものひくべかるし。こをを新編
萩のすくしてハ人をといつる泪。ゑをこていもくく新編萩のすを
いつる所をふゆうの形くゑ塚のすゑまでらむハいぐくものを人あるべ
をどしぐちゐるえのひくゑ　ゑ中ハ人のうづるゑ中ふきをくふきを文し。
又ひむりひゐる人を。ゑ人かゐるといつる流を。ゑ中ふをがをし。りくかゐるの

ゑ中ねるバむりひゐる人のとてそいふをを。又かゐる新編萩をうく
をるゑるゑてざれぐうををゑつまぎくいつるくをふをくりねし。
ゆらぐ行ゑゆづり　宇九の初　ゆゑ中ハ人をわひえくくを人ゑ成今ゑ
極楽へやゑてゑ行ゑ阿弥陀佛をねををくいふををし。ほかいつる佛経乃
をぐハ安用のゑすし。
ゑをくくくをゑ　月　ゑををてゑるべきハうちらをてをゑるべきし。ほか。
解脱の義くいつるハゑねをぐ。
ゆくくゑくて　宇十一の初　ゑづくゆいふ形り語へゑをもくくをゐし。
こゐやゑ形るくぐを　ゐ十二のひ　原氏ゑの氏多ふし。ほ或流ゑぐくし。
ゑ中せくゆををゑ　月　衣をゑくをハ行をぐゑ人のゑるぐ形をバくいつるほゑがを

ゑしをきたまはなり。

姫君を移し奉るかの日百あまり一度の伊与下向のましといふなり。

九月日　ゆきまで留るハ、心がゝしし。

京ふしゝもとゝ　上ふゝ之日といふハ九月ゆゝ未、京の日移べきなど。

此京秋の苦くら考ふ。備あきすし。又上ふ十月ゆついたちごろ

ぐるといひて、ゆゝふ〻ふ〻ふ〻とよ考ふ〻ふ今といふを思ひ移

ぎゝもこの日ふゝかぎゝ比。秋の白といふて、妨申。細流ふし。

みゝぐゆゆれみなゝんゝふ　いふ事ゆゆれ移べきとゝふをの沼し。

えむ人を　あナ三ゆゆ　係氏の姫のまひをかゝゝよりふる人をて。

ゆゆ移ふて拙作をうゑしる人をいふし。

紫苑

くまゝまで移ひぶゝひし沒　二のゑ　湖月抄説のごゝし。

山のさゝハ　月　点ゑがゝなり。

いそゆ中ふぞゝ　三のひ　をべていそゆ中ふもむゝいふハ、山乃

おくゆ、岩ふゆ立ゑぐれる地し、岩窟とゝ切るハ、ゑがゝなし。

ゆゝら生り　月　生まゆがりゝる中ゆ、ゑ葛ゆ蔓の毒ふ怪るゝり

いふ名なるべし。

ゑふゝゝゑゝ　ひのひ　此詞、上ゝりゆつぎきハ、地の沼乃やゝ移ども、地の

詞のこゑかたちばこゝろとなりはゝ係氏系の詞くさべし。

いとゝ　おのひと　いとゝはきとゝうるまぢき和の心ひのかゝほど

なりはよきをほめる詞し。他者に見てもゝ皆ほゞこゝしく

も猛ゝあるめりゝ除ゝは銀見てよきよし。ほこゝろ心がこゝし。

心がもの　日　変形(ヘン)なくいふこゝし。そべこゝ心がこゝいふ皆かうべきこゝ

ふ遠(ヒカ)ひるこゝ出て。心がくこゝ心がこゝ心がむ。みゞみるこゝきこし。

んをやこゝるこゝまし　日　みづこゝかうぬこゝ形こゝほこゝろこゝるやうめこゝし。

ほは上こゝかつぢきて見て。かゝりきこゝいふ云を。志こゝる心がこゝし。形きふ。

んをこゝしやこゝ形ぐこゝさこゝんこゝめこゝいふんこゝこゝいこゝは。言はかはこゝは。

こゝるこゝ形こゝぢこゝ。和俗書ふ用ひる俗は。絶こゝ。

こゝ俗ふえぬやこゝ形こゝ　日　いきこゝひも形こゝ。慄(ヒキ)こゝこゝぬやこゝふこゝ

こゝも。ほこゝ形こゝるがこゝ。朔日師。説。対ふこゝ形こゝ。

心ひおきこゝ　云のひこゝ　こゝふ掟字波こゝて。おきてこゝいふ詞を。用言にいへ

ば詞こゝて。こゝるこゝやこゝこゝくこゝと定むこゝし。和俗ふ此云いこゝ多きを。置(オキ)て

置こゝこゝ。まぢこゝいこゝきこゝこゝこゝん。和こゝ。

かいこゝこゝふこゝけきこゝき　日　和流の流ふてこゝこゝ。花こゝ。用し。

こゝこゝ形こゝこゝこゝ　七のこゝ　こゝこゝ形こゝこゝこゝこ

なさきをおきく人〻おもわゆるぞ　日　河海細流などふ後〻世世の人〻
ものをぞ。もしまさをおもふ事をおもふ人〻おもわゆるく
ひてハ。ものしなとし。一本ものをたのしてゆるばと。てもじ。みるふるばゝ
良暹法師。なさきをおきものかたらてをり。ものをぞまづとふと
うとも思へども。それも。ゆるばといふ詞。人ゆゑに。又思ふ。ふるりハ。こゝ
ろを写。侍る歟。思ひまれぬ人ゆまれ。恋をもとおもふ。
人〻ものをもてゆるばゆるばとてのぞむべきわざかといふ。
そこをみる。見るもの　日　底の見る目も。きゝおきるべきか。何ゝて海のそ
こまでハ思ひ入て。海ゝ才をおぎよゝハいふんといふこと。引歌用。
ゆるゝゝ。ぬるとど　日　どゝハだの侍るべし。日も著かゝ。ぬるれ。人〻。こゝ

やうゝを結ぶんとやはしし。結ぶを後の人。おうゝせ結ぶとへみて。
だうてハ。ものとと思ひて。さうゝふどふ改先。るう。さうでもどゝだ。
とハお侍ること多。こゝ。けゝ文をどうてハ。ゆゝふふのいぶることし。
多所。ゆゝぬるどゝいふを。地の河。おこゝせ多どうゝハ。人のゆゝ
河多ばゝ。多堺ふ。河多ゝてハ。ふゝのゝびゝ。ゝ味ひんべゝ。
ゝぶけ。おもふ　八のひゝ　やうけゝぶハ。今の侍ふ。真ふといふこと。
畑をどけゝちふ　九のひゝ　ゝハ寺。けをバ。多ゆゝ。歌ふどハ。ゆきふ。
かりふふせどふいをるし。妻尼の侍。ゑどうこと。
やうゝ。けりつる。詞を　日　やうゝ。おゝうけりつるゝつゝくこと。侍侍ハ。
ことをはどゝ。ゆりを。別を思ふや。ゑどうこと。

立てゆく　日　雀を追ふとて立てし。
きゝひきふかぶよ　日　わどハんのわどし。手ぢかぐ〳〵ふ位ハ〻ぐ可。
かんざし　日　髪ぢきゝざ毎くつふ〻て。末ぢ枝のきゝる毎
を。枝ざゝとつひ。目の物をさゝてゝるちまぢ。ぢ形ぶぶ
つふ〻ぐひし。ときバこきハ。額の際より項（イヌバキ）の方へ。髪の生（オヒ）のぐわり
させる形のさゝをつふ云し。髪のさゝをつふ云し。枝のさゝと。ぢ〻ぐ
ろぐへるわり。ぢ何者ぐ〻ふ〻。皆ぢし。志ろ成人ぐ〻ぐ并ゝん
ぢらをゝるかゝ。ゝゝをぢ女の髪ゝ。并させゝハゝきふ。考へ
づひゝ。ゝさぐ〻強ゝる注あるし。
きぐゝふ形〳〵　十ぢ形〳〵　ゝゝしゝるまぢきゝるふ。行ゝゝ形〳〵。おぐえ

ぢかゝ〳〵き形わ。
ぬ〳〵ふんふきわて　日　ふ〳〵ハ。なゝえふをあて。目つきの志ゝ〳〵し。信ゝふ
ふを〳〵ゝゝて〳〵つふ。ゝし。
又ゝゝるおゝゝ形　日　お納云ふハ。ゝゝぐ形。上ゝあゝ形二人ゝきて。お納
云ぐゝふ。ぢゝゝるおゝ形ゝ〳〵て。上ふ尺ゝゝるふ。又ゝゝるゝいゝゝ。
いま一人のおゝゝゝし。又ゝつふを。ゝへゝけて。ゝゝるおゝ形の又ゝゝゝ
つふゝゝゝゝをべゝゝぐ。お納云ハ。既ふ云し。ゆゝ〳〵ゝ行ゝバ。ゝゝふゝ
ゝゝゝゝつふべきふゝ〳〵ぎゝをや。
ゝゝ色つゝゝゝゝ〳〵　十一のひゝ　ぢ　ぢゝてもハ。信云ぢきてもものゝ〳〵。雅
信ゝハ。ぢ〻ぐ〳〵ぢつひぎゝ。ゝるし。

よきりおりゝ由〜　十一のひゝ　をべてよきるといふ言ハ、よきてゐること
ゆゝしうもこゝもとあて、信玄の坊へハ立よりでる給へるをいふな
ゐべゝ、給るをかゝぶるをかゝぶ本訪ることを過といふ、その過、家をよき乳
と例るハ、法〇おかぐゝよむ字なるかゝ、まぎれゝ誤まる例ミとそ
おゞゆゝ、そて又よきもよきもつゆふき。を過まゞも、共ふ濕べき言
なり、そて又よきるといふ言ハ、抽信出なゞおハ、をゝ〜ゆゆるれぬ
をゝ〜ハ、ゝしの信るゆゑゝいふ。
第のれむゝ　日　〜点例のゐゞゝ、さてゝまハ、第物といふゞゝ。
袴寝のれむゝ、ゝ給るゝ、第ゝハいつる。
いまゝ給ゝふ　十二のひゝ　細流ゝゞ、湖月抄説も、頗ヒ験あゆバゝい

ふゝをゞ、ゝぶきゝて〜取べし
まゞゝんな人〜　日　信氏ゝんをまゞゝんな人〜。
まゝて後の云ゝ　日　いまゝるかぎわゝ〜ふ対へゝ、まゝて後云ハ、細流ゝ
ゞ。
ゆゝ〜ゝ〜らんな〜　十四のひゝ　まゞをゝ〜ハ、ゝゞゝ〜ら〜ん
ゝて、ゝまゝるゝて、よかゝんのゝ、ゝ〜ゝらかゝ〜ゝて。
をゝ〜ゝるゝゆ〜〜への　日　ゆ〜〜へゝ信玄の抽ゞゝ。
ゝ〜ゝ人よおゞ〜ゝ　日　ゝ系をよつゆゝ人のふんのやうふおゞて。
まゞゝつゝ〜ゝよひゝれゝゝ〜ゝ〜ゝやおゞゝん、系ハよつゆ
の人のやうふいもゝ交のゝ信ゝひゝ、ゝんおハゝ〜ゞゝのゝ。

まぐむぐふ　日　まぐハいまぐし。又とるハえがてし。

女そ人よもて行くれてゝ　十五日ゝ　この後そ。おだゝかの方ふゝゝひ

てゝとゝふへりけるんにべゝ。まぐいき行くハ行ゝどゝ。女そゝゝ行ゝバ。

祖母ふゝゝゝひてゝ行くんとゝふまし。但三位のそぐゝゝふゝゝ。

儀のよぐゝゝゝ　日　ゝゝゝゝうちゝゝゝゝゝふぐゝうけ。ふ。儀のゝうけ

まさむゝゝゝゝぐゝゝゝゝゝ

紀の家ふよれど。後くいえでもさまざまむまいへど。後のさまざまむし。
絶えばうくすちあり。秋二日。さまざむ後り神なしるれかて。保氏の
家ちあの巳の白ちこあり。さて下白ハ。花島ふ。山ふさ考る身ハ。人もさまざ思
くいつるし。くるるがむ。侍ちの家なるこハ。後る。
さきむが考る 十九のひ ひが考ハ。あつ。ちさうの人の考こハ。うと考はし
ちり。侍ふにのきるくいつ。ちさうあるぐ。
中くにも 日 什変くる 対面しをるハ。うとしれものうる。ふ考なり
てバ。中くおふ後くかるべくらし。泣いくきむがこし。
時あり下一くびう 十の初 金光明経讃佛品ふ。希有希有。佛、
出於世。如優曇華、時一ヒ現耳。ふ文をいつるし。

あふくふのうく 日 此ふちは泣ぐもの後。ちきふくう。盃ふそ引よ
氣ふハ。河海ふ引考くふ。保のおぐくとぐへの考ぐこ。後く
のちふ。そのかむうへ考ちく。ふを考ふぐ。河海のちふ。みぐりふ
引考くふ。ふうそうちるこし。此くぬぐひちふ考。ふ泣ふくべ。
ちこなふ氣ふあひて 日 なふくよを切て氣べ。氣のひてハ。ぐ後ちのう
考をえくうのこし。弄花の後ちくぐ。宮勇ちは。
きくくる後 日 透くる後うく。ちきふいつるぐ。 河海後。むがこし。
こんふ考ちつぐぐこふ 日 河海後。用きつぐこ。
うくうくちものうく 十一のひ 氣ちを井。後のふちるふ後ちり。
後ちきんをうく 十二の初 朔月ふ。保氏うくやこのうく。ちくんちうう

くいへまぐさるんをけるふなり。

むつうゝ記日のかの 日 かゝる国をいやゝつひちをハ、ちゝしんのかゝ

ひりをつゆけてなぐゝいとものゝこれまぐさし。

うけちをかるふをへうゝ えゝ 古のひう こゝとり保氏君妙何しまて

まちるをのをもぐおぐやうかゝべ。思ひぞおゝいつるも、えゝうべ。

ちぶきていひのこさも何おうをよ絶がくてハ侍ゝのそぐされぞ

えゝハけんのへぐしもまちるをいとうゝく思ひぞおてそゝとをき

むを。をを。お俱ゝ。あをを為きかるべ。さてゝきゝハゝふよ

ゝ保氏何ゝゝるハ。えがゝくしまをハ上ふおもかしてゝいつるふかる

ちぐおりわしてけ下ゝより何ゝうをもうゝ。

といぬをけうゝき 日 拾きかも。六位の方二をを引ゝ。

ゝやいのちぐふ 日 こをハゝゝや今ぐふかぐへてけうバ。氣ゝろ

ぐけ儀きかをけうぐるかゝのおのづうゝをゝ氣べ。といふを

の引方けるべ。

思ひかるゝをを。ゝ 氏の方 注ふ。ゝををん。絶りおかゝ思ふ氣。

又ゝみをまかゝをゝのかんも。いつるハゝぐり。ゝををんの下り。

のゝりおかゝ思ひ侍ゝいふををふゝえゝるまぐふて。そをゆふ

ゝ、みをまかゝをいふゝをハゝ。ぐり笑ゆるかもゝいふをを。

ゝゝりハけうぐ。下へうまる何ゝるをや。

ゝおもかぐハゝゝ 日 四の日。拾きかふ氣んのをルほどをバゝ何ゝるかゝ

ものしり顔にいふ　六六のひら　今ちらむとする梅のちらぬうちに、やうはれんぐ
ぐをおぼえていてえうおきれんるよ、といつて、此方へ、ぐ見乃うえ
の、ほうよりも、紫上ふんをとりあつめ、ここへ、るとハる、
いとぐ、しろ色、ゝ　曰　まやうはそうおきれんるよりハ、紫上をまりせな
らんるハ、つよ、、、ろ色、、、、いとぐとハ、源氏ふの御引、和
のまはりもうしろうく、、、うん、とみるほうきて、いつり、
まわり、、孫ぐる、、　曰　まわハ、伝ふ、ろく、いふわるれり、、とろく
あをふんよぐし、かのうにたるうしし、伝まし、、、、うてゝるやう

のん、、あるを、、、、ふうあるを、、　下曰、ふんふ、儀乃ハ、徒の、、少、、、、、ふる
ふ　くみを、、て、、、　六七のひら　下曰、ふふふ、儀乃ハ、徒の、、少、、、、、ふる
を、、の儀きをもり、、ぐ、、、新をえせなるべきて、、ふ、、、し、　新身を
早下、、、、、し、、ふ、、、、、ふ、、、、、ぐ、
儀、、、、、え、ぐ　六八のひら　、、、ぐ、ぐ、、、、、

ゑ号ごとのふこ　日　さえぬ義とハ、夏ハ、さえて又ねの現ありて地なるを、夏
ふなりてしきゐる者ハ、つるすゑきをいふし。
氏なり〳〵ねどハこ〳〵　日　倩氏よ流し〳〵、油流るゝ〳〵。
なりき涙　日　泣キなごゝふ眠るをいふ。〳〵ゐなごゝし。
氏先のしごゝ弁令婦　廿九の条　弁と令婦と二人ゐて、令婦ハ主令
婦し。りゝゝふハ、弁と令婦とし、ごひゐし。て怪のゐれごとかりなるゝ
いつゐ令婦一人ゐるし。まるゐふ令婦ハ、二ごび名をいつり。保氏ゐ乃
嘉亜ゝるハ、弁ハゐ〳〵ごび、令婦のゝ主るゐ婦ゐ〳〵ゐて、いつるし。
ぶゝ保ものな〳〵　卅の条　ぶゐとハ、事ゐ氏ゐひごり好きもぶふゝし。
ものふりきゐゐ〳〵ゐふ　卅二の条　こゝハ、地ぶ好きを、ゐ〳〵保ゐるなり。

ゐゐゝ弁ハ、ゐ〳〵ねゝし。ゐをゐびごし。
此号ゐるゐゐゐ〳〵　卅三の条　此号のゝゐるゐを、ゐゐし。前の号ゐゐ
同保ゐゐゐゐし。　ゐ氏未三号ゐるゐゐふ保ハ、ゐ〳〵氏ゐ乃ゐし。
ゐゐゐゐゐゐ〳〵ゐゐゐゐゐふ〳〵　日　危ゐゐ〳〵ゐゐゐゐ保ゐゐ保ゐし。
ゐゐし。何ゐゐしゐゐ〳〵いゐゐゐゐゐゐ保ゐし。
ゐいゐゐゐゐゐ〳〵　卅四の条　ゐ〳〵ゐ氏ゐゐ乃ゐ。ゐひゐゐゐゐゐをゐゐゐ
ゐ。ゐゐ〳〵ゐゐゐ。保ゐ〳〵ゐ氏ゐ。ゐひゐゐゐゐゐ〳〵ゐゐゐゐゐゐ
保ゐゐゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
日ゐ〳〵人ゐゐ　日　河海ゐ引ゐゐる。陸ゐふゐ氏ハ、保の氏ゐ〳〵ごゐの保ゐり。
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

山里人ものをくるしうる　四月のひる　うるはしいこゑをつくりつづけてく。ほ
ゝとぎす。菖蒲ぐさをひきふかうしいなくてくつふまぶかくもち。
ぬまをきへつゝうり　日　細流ふかく　かやうちはひで田をうえ。人をつくべしと
ひろいはいまゞ〳〵にほし。きべてうやうちはひで田のうえかゝこゝもかるゝ
ゝ。くゞあのづゝけてゝふてそのれをうてゝふをかくびに人をはなま
て。行ゝうはきを。人をたくべきるハ多るをバおきて。ゆく多すかてゝふ
人をつまひきをつゞけし。
うひやきゝむとれ島あうゝ　日　とも。多くけ和かゝ。ときとくハ
一ふかるし。おゝいふてゝ。かゝうまゝ〳〵るゝ。そつふ京ハ。必ゝきゝてハ
れをぬあし。ゆゝハ高やきゝ〳〵ん。これ島和ふをきゝ。ふびふ為を

乱ゝやあゝん。
ゝかゝ〳〵ゝうはきゝ　四七はひ　結句。かへれべき波ゝかゝつふべきをゝる波
ゝかゝいるハきゝ〳〵いで。
発ざまゝかゝん　日　面目ゝ〳〵ともつふにゝるゝで。
ゝゝわきゝ〳〵　日　三ゝゝゝるべきゝかゝのゝきふハゝゝわきゝゝといる
なり。細流ゝゝで。
きべりいるて　四八のひる　うゝ〳〵歩きりて入ハかゝで。くゞ結ゝゝふ
じをよわて。入ハやうはきゝ為はるべし。伝ゝふいふきゝる九日ゝゝし。衣をな
ぎきゝゝゝゝ。日ゝゝゝはきゝへし。
今ゝわこをれど　四十はひ　森ハとゝふ今ゝわきゝめてえをれゝし。

[illegible] 日 此頃をもてこそは上のまゝにはなさ
[illegible]もかりぬべきふるゝ[illegible]紫上幼きあかつきさま
[illegible]おぼもかゝ此女の乳にはなれぬるもあはれ 但し此頃物怪
のゝぐわにて夢ぬしゝ[illegible]ゝのこゝろかゝるべし
おかるごもりかきて 廿一のひ [illegible]おき給ふよりも花ちるといふも
ちるまはて咲てまゝゝがちるこゝを明るかはじ
[illegible]上のゝ[illegible]ろもはゝ[illegible]をといふへ
[illegible]て[illegible]ろもゝ[illegible]ひをし[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]はつ
[illegible]尼ふゝ[illegible]ひ給[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ふし 細流ふゝ[illegible]後悔[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

末に支末世留。これハ蔭なる女の。とかりけるあどよりあ。ひまと
乳男に。よみをしるべし。なりたる田を。他男にてとりたる。他男ハ
かきふ。もゝ。ゐがまきなるふ。あどんきて。他男ぜんとて。ゐのとう。
疑ひや。ゐかんん。ちるぐ。と。ゐこをこそて。かくる。ゐ。ゐかきると
よゐる。こそて。今源氏ゐ。ゐけゐ。ゐ。ゐ。

のるし。古くより武ゆりはり弓。近ごろ新さくれだてといひて。そぢめ
ふ。昔なれ乘をとよあるはぐ。ふてゝも知べし。侍従。西ふ〳〵ふいで。
まろ〻ひ人ぞ　日　ゑとひ人ぞうるもとはしとし。
おもひやつ是はきほどのるふ　四十七の条　ひはり係りて。何の勇士ふ茶も
はきすはきとばといふし。侍従ものだ。
ゝ後ふも人をゝ　日　西津ものだ。湖月抄説のごゝ。
ふきこげて　日　はきふ。結城日記ふ。ものだ引をを。絵ものきこぎはぐ。ひると。提
の字あて。ものだ。ゝて拾ひ。といつるゝゝ。細流ものだし。
伝本丁ゝ。ゝ　四十八ゝ　伝本丁ふ。ゝなどハ。ふもものとゝ
ゝて。ものだかゝ。ゝ引ゝ。ゝへでよき表ゝて。ゝし。

ちひさきうぎりふとさゝふ　四十九の条　ものをさゝふ。俗ふいふ。ものとゝ。
ものとおき。ものだりといふゝゝし。別ゝてしといつハものだ。
ものるゝ人を　日　ものるのゝ。上りいつるがものゝ。
女をんやをゝるはるゝんよき　日　おもぐをゝかゝぶをを引べきふもあるぞ。
はるゝちをゝ　日　こゝハ上下ゝ。ものつきざ表。保氏ふのはるゝちゆいつるや
うふとはしゝ。
足結ひび倉ゝ　日　ゆもぢを上へつをてゝる伝ゝ。ものゝし。さてハゆといふ
ものゝそぢ。
こきまぜふ　五十ゝ　ゝ　点例乃ものゝし。
ふゝよゝふ　四十一の条　ふゝゝ。ものゝ。ものきを。ものゝ人のゝるゝし。ほふ。

大やゝ物るあもいつるハろし。ちまハなし。あひまたてといふハ。
ふくよろへう地ることふハりうび。
いよ〳〵ちうきまおろう〳〵　同　危ちめもハ右風ま。今めも風ハりうざ
ゑぶ今うより後いちゑんうきまおをちうぶのまうていつる。
ぞんぶ　同　侍位ゑぶまとし。け何ま〳〵ふいと多きを。うぶこうのま
まよりおきまとなう〳〵んやん。
何ときうおう〳〵て　同　侍新の絵へ多ゑ絵ひて。ちまふゆく〳〵ちう
ま也ゑう〳〵なり。
こまハいとさゑろりしるう〳〵　平三のひう　こまハまうめむを先とい
まゑろりしるかう〳〵づきぐまとぞくいふし。ほふよりつゑめも夫婦のか

ちまひのやうゑもりうび〳〵く。夫婦のるへもかりていつるハろ
〳〵かう〳〵づきぐまとハ。ゑちまう〳〵むを絵ちつきていふ何し。夫婦の
うまめ。まるろりしるうえ。いく〳〵ろう〳〵きもていうまびこと。までう
上りいひてう〳〵へまかうらぬてし。

上ノ件り。ゑぶ。ハ。ゑひりうまるうぶども。ちまう〳〵のまうび。ちまう〳〵いでつ
多沢。沒〳〵物ろまう〳〵めちゑ〳〵。まいと長きを。事ちぶき物ろハえま
へどちん者ろ絵ど。ちぶ〳〵ちう〳〵ふうぶ先てむまを。まるハいと〳〵ろ
ま〳〵いふうひまきうまぶ。ゑハ。ゑへど。ゑ才七十ちう〳〵なりて。ぶぶりふあ
ちまとふう〳〵ぬ。よりひろまう〳〵。むゑと物ちる。ちうま紀のちう〳〵物ど

まく　まどえ　ぬ　ゝ　をへざるうへぬ　ゐやくもやとむつゝ　くまぐこと
ゞもまくゝいと多くてなん　ゐひのかゝ　今ゐゞ　ゝ　ぬぐゝ　ゐるやうと
まて　んゝ　ほ　ほまゞ　いゐ　ゐ　ゐ　ゝ　ぶ　ゞ　くもおもひあくて　ゐゞ　ゝ
ゐゞ　ゝと　ゐぎてん　ゝ　ゝ